



社会学専攻大学院生 業績・略歴一覧

著者	同志社社会学研究学会
雑誌名	同志社社会学研究
号	16
ページ	141-153
発行年	2012-03-31
権利	同志社社会学研究学会
URL	http://doi.org/10.14988/pa.2017.0000014042

社会学専攻大学院生 業績・略歴一覧

[項目内容]

- [1] 論文（査読有。かつ単著かファースト・オーサーのもの）
- [2] 論文（上記以外の論文。本の方担執筆も含む）
- [3] 学会発表（海外・全国・地域の各学会）
- [4] 博論構想発表会での報告（専攻内もしくは同志社社会学研究学会）
- [5] 修士論文タイトル（未提出の人は予定タイトル）
- [6] 博士論文タイトル（あるいは研究テーマ。後期課程者のみ）
- [7] 非常勤講師、TA、チューターなど、教育・研究職歴
- [8] 調査報告書その他の執筆（社会調査実習報告書も含む）
- [9] 所属学会
- [10] 学歴・職歴その他

* 以下、課程別に入学年度および氏名のアルファベット順による。

[博士後期課程]

坂野 誠（バンノ マコト／Banno Makoto）

- [3] 2006 「民間人校長の研究——聞き取り調査をもとにして——」第58回日本教育社会学会（於大阪教育大学）
- 2008 「進学アスピレーションは加熱されるか（その1）——高等学校の習熟度別学習の取り組みから——」第60回日本教育社会学会（於 上越教育大学）
- 2009 「進学アスピレーションは加熱されるか（その2）——高等学校の習熟度別学習の取り組みから——」第61回日本教育社会学会（於 早稲田大学）
- 2010 「習熟度別クラス編は何をもたらしたか——ある高等学校の習熟度別学習の取り組みから——」第69回日本教育学会（於 広島大学）
- 2011 「高校生はなぜ勉強するのか——普通科中位校の調査から——」第70回日本教育学会（於 千葉大学）
- 2011 「習熟度別クラス編成授業と進学アスピレーション——ある高等学校の取り組みから——」第18回日本子ども社会学会（於 明星大学）
- [5] 「民間人校長の研究」（放送大学大学院）
- [6] 「習熟度別学習と進学アスピレーションについて」（2009年度研究テーマ）
- [8] 2010 「PISA 調査から見た学習時間の研究——どのような生徒が勉強しないのか」尾嶋史章編『学校教育と社会的不平等に関する国際比較研究（第2次報告書）』；pp.33-43（科学研究費補助金 [基盤研究 (B)] 「学校教育と社会的不平等に関する国際比較研究：PISA デー

タの分析を中心に])

[9] 日本教育社会学会、日本教育学会、日本子ども社会学会

[10] 高等学校教諭

同志社大学大学院社会学研究科博士後期課程（社会人）入学（2009）

巴 芳（ハ ヨシ／BA Fang）

[1] 2011 「伝統ネットワークから趣味ネットワークへの発展可能性：中国総合社会調査（CGSS）の結果から」『グローバルイノベーションにおける社会・経済システムの構想』社会・経済システム／社会・経済システム学会編 32； pp.47-54

2011 「大学院留学生の研究生活実態調査：同志社大学社会学研究科を事例に」『同志社大学教育開発センター年報』 2； pp.63-74

[2] 2010 「中国における社会ネットワーク研究の進展と変化——伝統ネットワークから趣味ネットワークへ」『同志社社会学研究』 14

[3] 2009 「在日中国人の趣味ネットワーク——大阪におけるサッカークラブの事例から」第 60 回関西社会学会大会（京都大学）

2009 「趣味ネットワークから見る定住過程と価値観の変化——大阪における在日中国人のサッカークラブを中心に」第 82 回日本社会学会大会（立教大学）

2010 「中国人社会におけるネットワーク研究の転換——伝統ネットワークから友人ネットワークへ——」第 22 回日中社会学会大会（一橋大学）

2010 「伝統ネットワークから趣味ネットワークへの可能性——中国人社会ネットワーク研究に着目——」第 29 回社会・経済システム学会大会（同志社大学）

[4] 「中国人社会における趣味ネットワークの研究——大阪・北京におけるフィールドワークを通じて」博論構想発表会（2009）

「中国人社会における移動とネットワークの研究——趣味による紐帯の形成を中心に——」博論構想発表会（2010）

[5] 「在日中国人の新しいネットワークと社会関係資本の形成分析——大阪国際 FC の事例から」（2009）

[6] 「中国人社会における移動とネットワークの研究——趣味による紐帯の形成を中心に」

[7] 「社会調査実習（鵜飼孝造）」（2009 年度）TA

「質的調査法（西川麦子）」（2009 年度）TA

「社会調査実習（鵜飼孝造）」（2010 年度）TA

「社会調査実習（池上英子）」（2011 年度）TA

[8] 2010 「同志社大学社会学部新卒生の就職先と職種の分析」『第 1 回同志社大学社会学部卒業生アンケート調査報告書』同志社大学社会学部教育 GP 評価委員会； pp.39-48

2011 「ジェンダー視角から見る大学生余暇生活の過ごし方——同志社大学社会学部卒業生を事例に——」『第 2 回同志社大学社会学部卒業生アンケート調査報告書』同志社大学社会学

部教育 GP 評価委員会：pp.11-9

- [9] 関西社会学会 日本社会学会 日中社会学会 社会・経済システム学会
- [10] 中国 東北大学 会計学学士取得 (2001)
佛教大学社会学部卒業 (2006)
同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士前期課程修了 (2009)
同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程入学 (2009)
専門社会調査士 (2009)

白川 俊之 (シラカワ トシユキ/Shirakawa Toshiyuki)

- [1] 2010 「配分格差評価としての領域別不公平感の規定構造——機会認知を介した社会階層との因果関係」『社会学評論』60(4)：pp.570-586
2010 「家族構成と子どもの読解力形成——ひとり親家族の影響に関する日米比較」『理論と方法』25(2)：249-265
2011 「現代高校生の教育期待とジェンダー——高校タイプと教育段階の相互作用を中心に」『教育社会学研究』89, 49-69
- [3] 2008 「現代日本の不平等意識と不公平感」第 81 回日本社会学会大会 (東北大学)
2009 「家族構成と教育の不平等——母子家庭と父子家庭の比較を中心に」第 60 回関西社会学会大会 (京都大学)
2009 “Single Parenthood and Children’s Academic Performance: The Comparison of Single-mother Family and Single-father Family,” The 9th Conference of the Asia-Pacific Sociological Association (Discovery Kartika Plaza Hotel, Bali, Indonesia).
2010 「社会不平等・格差意識に対する居住地特性の効果の検討——マルチレベルモデルを用いて」第 61 回関西社会学会大会 (名古屋市立大学)
2011 「教育の垂直・水平的格差次元と地位達成——1990 年以降の教育とキャリア軌跡」第 62 回関西社会学会大会 (甲南女子大学)
- [4] 「教育機会の階層格差に関する実証研究：構造・変動・理論」博論構想発表会 (2010)
- [5] 「社会的公正の計量分析——機会の平等と社会的不公平感」(2009)
- [6] 「教育機会の階層格差の生成と変動——Inequality of Educational Opportunity 理論にもとづくアプローチ」(2010 年度研究テーマ)
- [7] [TA]
2006 年度「社会調査実習 (平井順)」
2008 年度「社会調査実習 (小林大祐)」
2009 年度「社会学演習Ⅲ (ブルース・ホワイト)」
2010 年度「社会調査実習 (古田和久)」
2011 年度「社会学演習Ⅲ (尾嶋史章)」
- [8] 2005 「不公平感の『不公平性』——学歴不公平感と所得不公平感を中心に」尾嶋史章編『現代日

- 本におけるジェンダーと社会階層に関する総合的研究』（課題番号：15330112）平成15～16年度科学研究費補助金基礎研究（B）（1）研究成果報告書，15-26
- 2007 「社会活動における女性の参加者層——教育の地位表示機能を手がかりに」 鶴飼孝造編『新しいコミュニティの構想 2006年兵庫県県民調査報告書』；pp.131-148（平成16年度～平成19年度科学研究費補助金〔基盤研究（B）〕研究成果報告書）
- 2008 「若年労働市場における非典型雇用・無業とジェンダー——JGSS 統合データによる分析から」大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所編『日本版 General Social Surveys 研究論文集 [7] JGSS で見た日本人の意識と行動』，133-145
- 2009 「ひとり親家族と教育——母子家庭と父子家庭のちがいに注目した PISA 2000 データの分析」尾嶋史章編『学校教育と社会的不平等に関する国際比較研究（第1次報告書）』；pp.23-37（科学研究費補助金〔基盤研究（B）〕「学校教育と社会的不平等に関する国際比較研究：PISA データの分析を中心に」）
- 2009 「サンプル・ウェイトとリプリーケート・ウェイト——二段階標本設計にもとづくデータの特徴と分析時の注意点」尾嶋（2009）所収；pp.61-88
- 2009 「情報機器の利用における格差と社会的文脈の変化——JGSS データを用いて」大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所編『日本版 General Social Surveys 研究論文集 [9] JGSS で見た日本人の意識と行動』；pp.93-106
- 2010 「期待学歴に対する社会階層の2次効果——IEO・経路依存性・ジェンダー」尾嶋史章編『学校教育と社会的不平等に関する国際比較研究（第2次報告書）』；pp.19-32（科学研究費補助金〔基盤研究（B）〕「学校教育と社会的不平等に関する国際比較研究：PISA データの分析を中心に」）
- 2010 「教育改革時代における大学と職業」『第1回同志社大学社会学部卒業生アンケート調査報告書』同志社大学社会学部教育 GP 評価委員会；pp.27-37
- 2010 「ライフコース初・中期における社会的ネットワークと精神的健康——JGSS-2009 LCS による実証」『日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集』10：273-284
- 2011 「就職結果はどのように決まるのか——カウント・データ回帰モデルによる内定者数の分析」『第2回同志社大学社会学部卒業生アンケート調査報告書』同志社大学社会学部教育 GP 評価委員会；pp.21-38
- 2011 「社会不平等・格差意識と居住地の社会構造——機会不平等・収入格差認知のマルチレベル分析」佐藤嘉倫編『現代日本の階層状況の解明——ミクロ・マクロ連結からのアプローチ 3 社会意識・ライフスタイル』科学研究費補助金（基盤研究（A））（課題番号20243029）研究成果報告書，91-108
- [10] 同志社大学文学部社会学科卒業（2006）
同志社大学大学院社会学研究科博士前期課程修了（2009）
同志社大学大学院社会学研究科博士後期課程入学（2009）
専門社会調査士（2010）

日本学術振興会特別研究員（DC 2、2011-2）

田崎 俊之（タサキ トシユキ／Tasaki Toshiyuki）

- [1] 2009 「伏見酒造業における酒造技術者の実践コミュニティ」『フォーラム現代社会学』関西社会学会 8； pp.105-19
- [3] 2008 「伏見酒造業における酒造技術者の実践コミュニティ」第 59 回関西社会学会大会（松山大学）（関西社会学会大会奨励賞受賞）
2008 「実践コミュニティにおける多重成員性の問題——京都・伏見の日本酒製造業を事例に」第 81 回日本社会学会大会（東北大学）
- [5] 「現代企業組織と企業横断型実践コミュニティ——伏見酒造業における酒造りの社員化を通して」（2009）
- [6] 「“わざ” をめぐる集団的学習プロセスの研究」（2010 年度研究テーマ）
- [7] 社会調査実習（2006 河口充勇）TA
質的調査法（2007-2008 西川麦子）TA
社会学演習Ⅲ（2009 鶴飼孝造）TA
- [8] 2010 「高校生の職業展望における地位達成志向と充足志向——地位尺度と価値尺度を通して」尾嶋史章編『学校教育と社会的不平等に関する国際比較研究（第 2 次報告書）』； pp.45-63（科学研究費補助金[基盤研究(B)]「学校教育と社会的不平等に関する国際比較研究：PISA データの分析を中心に」）
2010 「学科別集計にみる学科の特性と傾向」『第 1 回同志社大学社会学部卒業生アンケート調査報告書』同志社大学社会学部教育 GP 評価委員会； pp.49-56
- [9] 日本社会学会 関西社会学会
- [10] 松山南高等学校卒業（2002）
同志社大学文学部社会学科卒業（2006）
同志社大学大学院社会学研究科博士前期課程卒業（2009）
同志社大学大学院社会学研究科博士後期課程入学（2009）
専門社会調査士（2010）
日本学術振興会特別研究員（DC 2、2010——1）

金 政芸（キム ジョンウン／Kim Jeongwoon）

- [2] 2011 「ナショナル・アイデンティティと他国意識——自国への愛着・自国優越意識・自国特別意識と他国への好感度」『同志社社会学研究』15； pp.13-24
- [3] 2010 「ナショナル・アイデンティティの形成と他国認知——欧米とアジアに対する好感度からみた自国への特別意識と優越意識」第 83 回日本社会学会大会（名古屋大学）
- [4] 「外国人への排外意識の規定要因」博論構想発表会（2011）
- [5] 「ナショナリズムを求める人びと——権威主義・他者との連帯・他国への嫌悪感からみたナショ

ナリズムの構造」(2010)

- [6] 「ネーションへの愛着の研究——非排他的なネーションへの愛着をもつための条件について」(研究テーマ)
- [7] [非常勤講師]
 - 2011 神戸女学院文学部「社会統計学 (A)」(前期開講科目)
 - 2011 神戸女学院文学部「社会統計学 (B)」(後期開講科目)
 - 2011.8 島根大学法文学部「情報科学演習」(夏期集中講義)
- [TA]
 - 2008 年度「社会学演習 (板垣竜太)」
 - 2009 年前期「社会調査入門 (尾嶋史章)」
 - 2010 年度「社会調査実習 (鵜飼孝造)」
 - 2010 年度「社会学演習 (藤本昌代)」
- [8] 2010 「大学生の教育満足感と大学生活充実感を高める諸要因」『第1回同志社大学社会学部卒業生アンケート調査報告書』同志社大学社会学部教育 GP 評価委員会；pp.13-25
- 2010 小林久高・金政芸「ワードを使った論文作成法——KT法の概要」『2009年度社会調査実習報告書 (担当教員：小林久高)』；pp.281-98
- 2011 「大学生の論理的思考および説明能力の向上感の規定要因」『第2回同志社大学社会学部卒業生アンケート調査報告書』同志社大学社会学部教育 GP 評価委員会；pp.1-9
- 2011 小林久高・山本圭三・金政芸・猿渡壮「社会調査のためのエクセル利用法」『同志社社会学研究』15；pp.77-96
- [9] 日本社会学会
- [10] 同志社大学文学部社会学科卒業 (2008)
 - 同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻前期課程修了 (2010)
 - 同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻後期課程入学 (2010)
 - 専門社会調査士 (2011)

松川 杏寧 (マツカワ アンナ/Matsukawa Anna)

- [1] 2009 松川杏寧・鷹家光吾・立木茂雄「地域の安全性から探索する CPTED とソーシャル・キャピタルにおける防犯指標に関する研究——京都市内共同住宅地でのケーススタディ」『地域安全学会論文集』11；pp.115-25.
- 2011 松川杏寧・立木茂雄「ソーシャルキャピタルの視点から見た地域の安全・安心に関する実証的研究」『地域安全学会論文集』14；pp.27-36.
- 2011 松川杏寧・立木茂雄「地域特性がソーシャルキャピタルに与える影響に関する研究——多母集団同時分析を用いた神戸市事例研究」『地域安全学会論文集』15；pp.385-394.
- [2] 2009 松川杏寧・鷹家光吾・立木茂雄「地域の安全性から見える CPTED とソーシャル・キャピタルの関係」『地域安全学会梗概集』24；pp.93-96

- 2010 松川杏寧・立木茂雄「地域の防犯性に与えるソーシャルキャピタルの効果に関する実証的研究——平成 21 年度神戸市 1 万人アンケートのデータを基に」『地域安全学会梗概集』26; pp.59-62
- 2010 松川杏寧・立木茂雄「ソーシャルキャピタルと地域の防犯性因果モデルについての検討——多母集団同時分析を用いて」『地域安全学会梗概集』27; pp.97-100
- 2011 松川杏寧・立木茂雄「ソーシャルキャピタルと地域の防犯性因果モデルの検討と向上」『地域安全学会梗概集』28; pp.97-100
- [3] 2009 「地域の安全性から見える CPTED とソーシャル・キャピタルの関係」地域安全学会春季研究発表会（一般論文発表）
- 2009 「地域の安全性から探索する CPTED とソーシャル・キャピタルにおける防犯指標に関する研究——京都市内共同住宅地でのケーススタディ」地域安全学会秋季研究発表会（研究発表）
- 2010 「地域の防犯性に与えるソーシャルキャピタルの効果に関する実証的研究——平成 21 年度神戸市 1 万人アンケートのデータを基に」地域安全学会春季研究発表会（一般論文発表）
- 2010 「ソーシャルキャピタルと地域の防犯性因果モデルについての検討——多母集団同時分析を用いて」地域安全学会秋季研究発表会（一般論文ポスター発表）
- 2011 「ソーシャルキャピタルと地域の防犯性因果モデルの検討と向上」地域安全学会春季研究発表会（一般論文発表）
- 2011 「Social Capital and Community safety and security: Using Simultaneous Multiple Group Analysis」国際犯罪学会第 16 世界大会（Thematic Session）
- 2011 「地域特性がソーシャルキャピタルに与える影響に関する研究——多母集団同時分析を用いた神戸市事例研究」地域安全学会秋季研究発表会（研究発表）
- [4] 2011 「地域の防犯性向上に関する実証的研究——地域特性およびソーシャルキャピタルに着目して」同志社社会学研究学会
- [5] 「地域の安全性から探索する CPTED とソーシャルキャピタルにおける防犯指標に関する事例研究——京都市内郊外部の 2 共同住宅地の比較から」（2010）
- [6] 地域と防犯・ソーシャルキャピタル・環境犯罪学（2011 年度研究テーマ）
- [7] 2010 社会学演習Ⅲ（鯉坂学）・家族社会学（立木茂雄）[TA]
- 2011 社会学演習Ⅲ（立木茂雄）[TA]
- 2011 留学生チューター
- [8] 2010 松川杏寧・立木茂雄『ソーシャルキャピタルの視点から見たコミュニティづくりと地域の安全性や安心感に関する調査報告書——平成 21 年度神戸市 1 万人アンケートのデータを基に』神戸都市問題研究所.
- 2010 松川杏寧・立木茂雄『ソーシャルキャピタルの視点から見たコミュニティづくりと地域の安全性や安心感に関する調査報告書——2006 年から 2010 年までの調査の成果と分析』平成 22 年度神戸市地域活動推進委員会報告書.

- 2011 「ミナミ研究における大阪女学院同窓会の位置づけ——大阪女学院と同窓会の特性について——」 鯨坂学編 『「都心回帰」時代における大都市の構造変容——大阪市を事例として——(研究成果報告書)』; pp.85-93 (科学研究費補助金 [基盤研究 (B)] 「「都心回帰」時代における大都市の構造変容——大阪市を事例として——」)
- 2011 松川杏寧 「中崎町の地域状況と調査概要 (中崎町の概要) (調査概要)」 『2010 年度社会調査実習報告書 (担当教員: 徳田剛)』 pp.3-10
- 2011 重松奈奈・松川杏寧 「中崎町の来訪者に関する分析」 『2010 年度社会調査実習報告書 (担当教員: 徳田剛)』 pp.29-41
- [9] 犯罪社会学会 社会病理学会 地域安全学会 同志社社会学研究学会
- [10] 大阪女学院高等学校卒業 (2002)
Santa Monica Collage 卒業 (2005)
University of California, Irvine 卒業 (2007)
同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻前期課程修了 (2010)
同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻後期課程入学 (2010)

松本亜沙香 (マツモト アサカ / Matsumoto Asaka)

- [1] 2009 松本亜沙香・立木茂雄 「阪神・淡路大震災の神戸市内におけるアンケート震度および社会的脆弱性が建物被害や直接死者数に及ぼす影響に関する確認的研究」 『地域安全学会論文集』 11; pp.89-96
- 2011 松本亜沙香・林春男・立木茂雄 「東日本大震災時の買い溜めパニック・寄付・物資送付の関連要因に関する研究: インターネット調査結果から」 『地域安全学会論文集』 15, pp.463-472
- [2] 2009 松本亜沙香・立木茂雄 「阪神・淡路大震災における神戸市内の死者数に及ぼす建物被害・社会経済および地理空間要因の関連性に関する確認的研究」 『地域安全学会梗概集』 24; pp.97-100
- 2010 松本亜沙香・立木茂雄 「阪神・淡路大震災における西宮市内の死者数に及ぼす地震地表最大速度および社会的脆弱性が建物被害や直接死者数に及ぼす影響に関する研究」 『地域安全学会梗概集』 27; pp.129-132
- 2011 松本亜沙香・林春男・立木茂雄 「東日本大震災時のパニック購買の規定因に関する基礎的研究: インターネット調査結果から」 『地域安全学会梗概集』 28, pp.101-104
- [3] 2009 地域安全学会春季研究発表会 (一般論文)
2009 地域安全学会秋季研究発表会 (査読論文)
2010 地域安全学会秋季研究発表会 (一般論文)
2011 地域安全学会春季研究発表会 (一般論文)
2011 地域安全学会秋季研究発表会 (査読論文)
- [5] 「阪神・淡路大震災における神戸市・西宮市内のアンケート震度・地震最大速度および社会的脆

弱性が建物被害や直接死亡者数に及ぼす影響に関する研究」(2011)

- [7] 2010 社会学演習Ⅲ (立木茂雄) TA
- 2011 社会調査実習 (立木茂雄) TA
- [9] 同志社社会学研究学会 地域安全学会
- [10] 帝塚山高等学校卒業 (2005)
- 同志社大学社会学部社会学科卒業 (2009)
- 同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻前期課程修了 (2011)
- 同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻後期課程入学 (2011)
- 専門社会調査士 (2011)

岡本 洋一 (オカモト ヨウイチ / Okamoto Yoichi)

- [2] 2011 「戦後日本における世代形成——消費社会と世代——」『同志社社会学研究』15; pp.43-56
- [5] 「近代化と団塊世代 世代連関〈未来への確信〉とその蹉跌——エンプロイ化とその規範としての〈努力〉からみる——」(2011)
- [7] 2003~2004 大阪産業大学非常勤講師 (人間環境学部「広告論」)
- [8] 「社会調査実習」報告書 (2012)
- [10] 同志社大学文学部英文学科卒業
- 広告会社勤務 (1974~2007)
- 同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻前期課程修了 (2011)
- 同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻後期課程入学 (2011)

猿渡 壮 (サルワタリ タケシ / Saruwatari Takeshi)

- [2] 2012 「基層的な連帯の感覚と投票への参加——投票参加の深層要因に関する試論的研究——」『同志社社会学研究』16; pp.71-79
- [3] 2011 「投票参加の深層要因——儀礼的参加モデルの試論的検討——」(第84回日本社会学会大会)
- [5] 「投票参加の深層要因——儀礼的参加モデルの試論的検討——」(2011)
- [6] 「政治参加に関する社会学的研究」(研究テーマ)
- [7] [非常勤講師]
- 2011~ 鳥根大学法文学部「情報科学演習」(夏季集中講義)
- 2011~ 京都女子大学現代社会学部「データ処理論Ⅱ」(秋学期開講科目)
- 2011~ 大阪人間科学大学人間科学部「社会統計学」(秋学期開講科目)
- 2011~ 大阪人間科学大学人間科学部「社会調査技術」(秋学期開講科目)
- [ティーチング・アシスタント]
- 2008年度 社会学演習Ⅲ (Bruce White)
- 2011年度 社会学演習Ⅲ (小林久高)

- 2011 年度 社会学演習Ⅲ (板垣竜太)
- [8] 2010 「大学生活における諸経験と卒業生の将来展望」『第 2 回同志社大学社会学部卒業生アンケート調査報告書』同志社大学社会学部教育 GP 評価委員会；pp.51-64
- 2010 「エクセル入門」『2009 年度社会調査実習報告書 (担当教員：小林久高)』；pp.257-279 (共著：小林久高・猿渡壮・山本圭三)
- 2011 「社会調査のためのエクセル利用法」『同志社社会学研究』15；pp.77-96 (共著：小林久高・山本圭三・金政芸・猿渡壮)
- [9] 日本社会学会
- [10] 東京都立八王子東高等学校卒業 (2004)
- 同志社大学文学部社会学科社会学専攻卒業 (2008)
- 同志社大学大学院社会学研究科博士前期課程修了 (2011)
- 同志社大学大学院社会学研究科博士後期課程入学 (2011)
- 専門社会調査士 (2011)

[博士前期課程]

前久保智博 (マエクボ トモヒロ/Maekubo Tomohiro)

- [3] 2011 「うつ病者の職場復帰時の指標としての SDS、SASS、新ストループ検査Ⅱの有用性の検討」前久保邦昭・森千栄子・穴戸順子・前久保智博、日本精神神経学会
- [5] 「規範認知に関する理論の計量データを中心とした実証的検討——デュルクム・ルーマン・フロイトの理論を中心に——」(2012 年度 予定タイトル)
- [8] 2005 「ガチンコ芸人紀行」(お笑い芸人養成学校へのルポルタージュ)『龍谷大学社会学部ジャーナル』龍谷大学社会学部学会；pp.27-29
- 2005 「ちんどんの魅力」『龍谷大学社会学部ジャーナル』龍谷大学社会学部学会；pp.150-153
- 2006 「ゆきゆきて貧乏旅行」『龍谷大学社会学部ジャーナル』龍谷大学社会学部学会；pp.132-133
- 2006 「営内ラッパの音を聴け」(陸上自衛隊へのルポルタージュ)『龍谷大学社会学部ジャーナル』龍谷大学社会学部学会；pp.134-135
- 2012 「人生で大切なものはすべて民間企業で学んだ」(民間企業へのルポルタージュ)『龍谷大学社会学部ジャーナル』龍谷大学社会学部学会 (掲載予定)
- 2012 「よろしく哀愁、ベンチャー野郎」(起業ルポルタージュ)『龍谷大学社会学部ジャーナル』龍谷大学社会学部学会 (掲載予定)
- 2012 「東日本大震災 荒巻石巻地区ルポルタージュ」『龍谷大学社会学部ジャーナル』龍谷大学社会学部学会 (掲載予定)
- [10] 大阪桐蔭高等学校卒業
- 龍谷大学社会学部社会学科卒業
- 広告出版会社勤務

情報技術会社勤務

同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻前期課程入学（2009）

崔 藍心（サイ ランシン／Cui Lanxin）

- [5] 「離婚の諸要因とその後の生活への影響——全国家族調査日本（NFRJ）2003 データを用いて——」（2012）
- [7] 2009 年度「質的調査法（西川麦子）」チューター
2010 年度「ファーストイヤーセミナー 1（鵜飼孝造）」チューター
2010 年度「社会調査実習 I（鵜飼孝造）」チューター
2010 年度「社会調査入門（尾嶋史章）」TA
2011 年度「社会調査実習 I（パンジュイ）」TA
- [8] 2010 「大学生の意識と行動」『同志社大学社会調査実習報告書』同志社大学社会学部社会学科 No.19（第 1 分冊）pp.193-201
2010 「社会学部学生のキャリア意識と就職活動に関する調査 II」『同志社大学社会調査実習報告書』同志社大学社会学部社会学科 No.19（第 5 分冊）pp.151-158
- [10] 中国長春師範学院外国語学部日本語専攻卒業（2005）
同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻前期課程入学（2010）
専門社会調査士（申請中）

劉 璿舒（リュウ シンジョ／Liu Jinshu）

- [5] 「中国における ACG ファンサイトのエスノグラフィー」（2012）
- [7] [TA]
2011 年度「社会学演習 II（森川真規雄）」
- [8] 「社会調査実習」報告書（担当教員：鵜飼孝造）（2010）
- [10] 天津科技大学経済管理学部財務管理専攻卒業（2006）
同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻前期課程入学（2010）

河村 咲弥（カワムラ サクヤ／Kawamura Sakuya）

- [10] 同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻前期課程入学（2011）

小林 勝平（コバヤシ ショウヘイ／Kobayashi Shouhei）

- [10] 早稲田大学文学部文学科西洋史専修卒業（2011）
同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻前期課程入学（2011）

西岡 暁廣（ニシオカ アキヒロ／Nishioka Akihiro）

- [5] 「厳罰主義的パーソナリティの規定要因」（予定）

- [7] 2011 社会調査実習 (小林久高)・社会調査実習 (丸山真夫)
- [10] 名古屋市立菊里高等学校卒業
同志社大学社会学部社会学科卒業 (2010)
同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻前期課程入学 (2011)

會 怡馨 (ソウ イケイ / Tseng Yihsing)

- [10] 東呉大学日本語文学科卒業 (2009)
同志社大学大学院社会学研究科社会学専攻前期課程入学 (2011)

[特別研究生]

HAKKARAINEN Nina (ハッカライネン ニーナ)

- [1] 2009 「キャリアの決め手とは? ——日本在住の外国人語学教師のキャリアパスを辿って——」
『ヒューマンセーフティ研究 2009 年 2 号』立命館大学産業社会学部ヒューマンセーフティ研究会; pp.17-32
- 2010 “Supportive Partners and Family Men: Influence of a ‘Family’ on Male Migrants’ Careers in Japan”, Proceedings of the 2nd Next-Generation Global Workshop 2009 “Is ‘Family’ Alive?”, Kyoto University Global COE Program, “Reconstruction of Intimate and Public Spheres in 21st Century Asia”; pp.138-158
- 2010 “Women Migrants’ Labour Market Exclusion in Japan” 『ヒューマンセーフティ総合研究』2010 年 3 月立命館大学産業社会学部; pp.13-26
- 2012 “Silent Partners: The Role of Japanese Spouses in Migrant Ethnic Businesses in Japan”, Chinese Journal of Applied Anthropology Vol.2, University of Hong Kong, September 2012 (forthcoming)
- [3] 2009 “From a Dream Job to Precarious Jobs – Adaption Strategies of Foreign Language Instructors in the Changing Japanese Labour Market”, 第 82 日本社会学会大会 (立教大学)
- 2009 “Supportive Partners and Family Men: The Influence of ‘Family’ on Male Migrants’ Careers in Japan”, 2nd CGOE Next Generation Global Workshop (Kyoto University)
- 2010 “Work Based Migration to Japan: Foreign Professionals from Past to Present”, International Workshop: Work and Family in Recent Korea and Japan (Ritsumeikan University)
- 2010 “Word of Mouth or Not: Role of Social Capital in Career Building Processes of Highly Skilled Migrants in Japan”, the Fourteenth Asian Studies Conference Japan (Waseda University)
- 2011 “A Reversal of Fortune: Cultural Capital Defining Career Paths of Highly Educated Foreigners in Japan”, Second International Forum on Business and Anthropology (University of Hong Kong)
- 2011 「高学歴外国人の初職獲得経路」第 84 回日本社会学会大会 (関西大学)

- 2011 “Good Worker’s Dilemma : Ethnic and Gendered Job Segregation of Highly Educated Foreigners in Japan”, Gendering Asia Network Second Workshop (University of Iceland)
- 2011 “Getting the First Job in Japan : Highly Educated Foreigners as Occupationally Mobile Semi-Professionals”, the Second Annual Conference of the International Association for Asia Pacific Studies (Ritsumeikan Asia Pacific University)
- [6] Occupational Mobility of Highly Educated Foreigners in Japan (ヘルシンキ大学大学院)
- [7] 2009～2012 立命館大学総合研究機構客員研究員
2011～2012 同志社大学 The Institute for the Liberal Arts 国際シンポジウム準備委員会補助
- [9] 日本社会学会、日本移民学会、同志社社会学研究学会、International Association for Asia Pacific Studies
- [10] ヘルシンキ大学大学院東アジア研究科修士
ヘルシンキ大学大学院東アジア研究科後期課程入学 (2009)
同志社大学大学院社会学研究科特別研究生 (2010～2012)